

住民アンケート及びワークショップの実施結果

1. 住民アンケート

(1) アンケート概要

調査期間：令和7年2月25日(火)～3月7日(金)

調査方法：調査票への記入・Web

調査対象：八幡市民 2,000人（無作為抽出）

〔内訳〕 八幡・橋本・男山・川口 667人

東部 667人

南部 666人

※公共交通の特性が異なる市内3地域の地域別の移動実態を比較分析するため、無作為抽出法的一种である層別抽出法を用いて抽出を実施。

回収率

地域名	回収件数	配布枚数	回収率
八幡・橋本・男山・川口	459	667	68.8%
東部	412	667	61.8%
南部	419	666	62.9%
合計	1290	2,000	64.5%

(2) アンケート結果（一部抜粋）

① 路線バス・コミバスの利用頻度

路線バスは、路線が比較的充実している八幡・橋本・男山・川口及び南部で比較的高い。一方、路線が比較的少ない東部では低く、「全く利用なし」が4割以上を占めている。

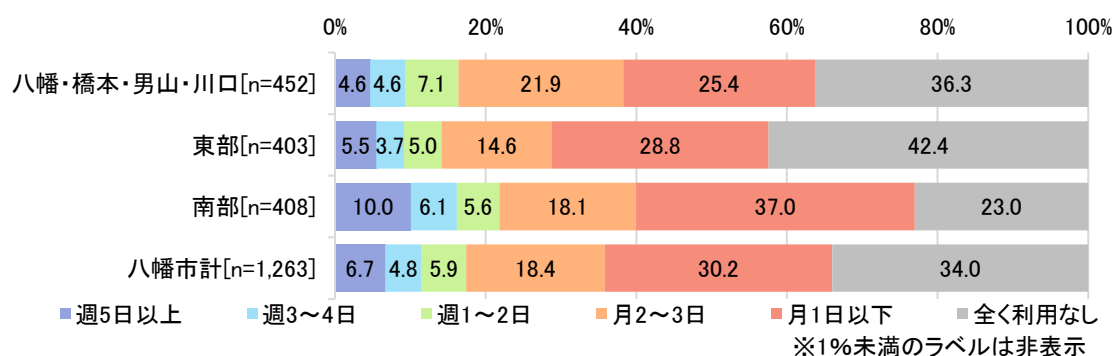


図 路線バスの利用頻度

コミバスの利用頻度は、路線が通っている八幡・橋本・男山・川口及び東部でも「全く利用なし」が7割以上を占めており、利便性及び認知度の向上が必要と考えられる。

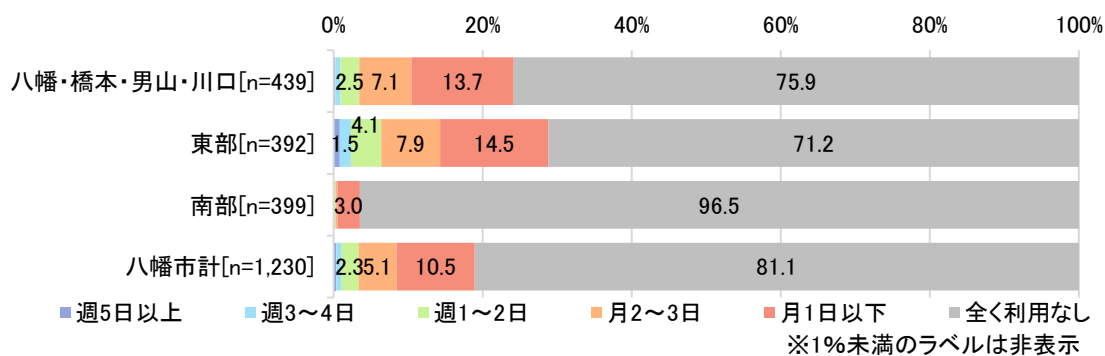


図 コミバスの利用頻度

② 外出目的別の交通手段

【通勤・通学】

通勤・通学時の交通手段をみると、八幡・橋本・男山・川口、南部ではそれぞれ京阪電車、路線バスが最も高くなっている。

また、東部では自家用車での通勤が約6割を占める一方、京阪電車、路線バスも約4割利用されており、石清水八幡宮駅への通勤・通学時間帯でのバス路線の確保は重要と考えられる。

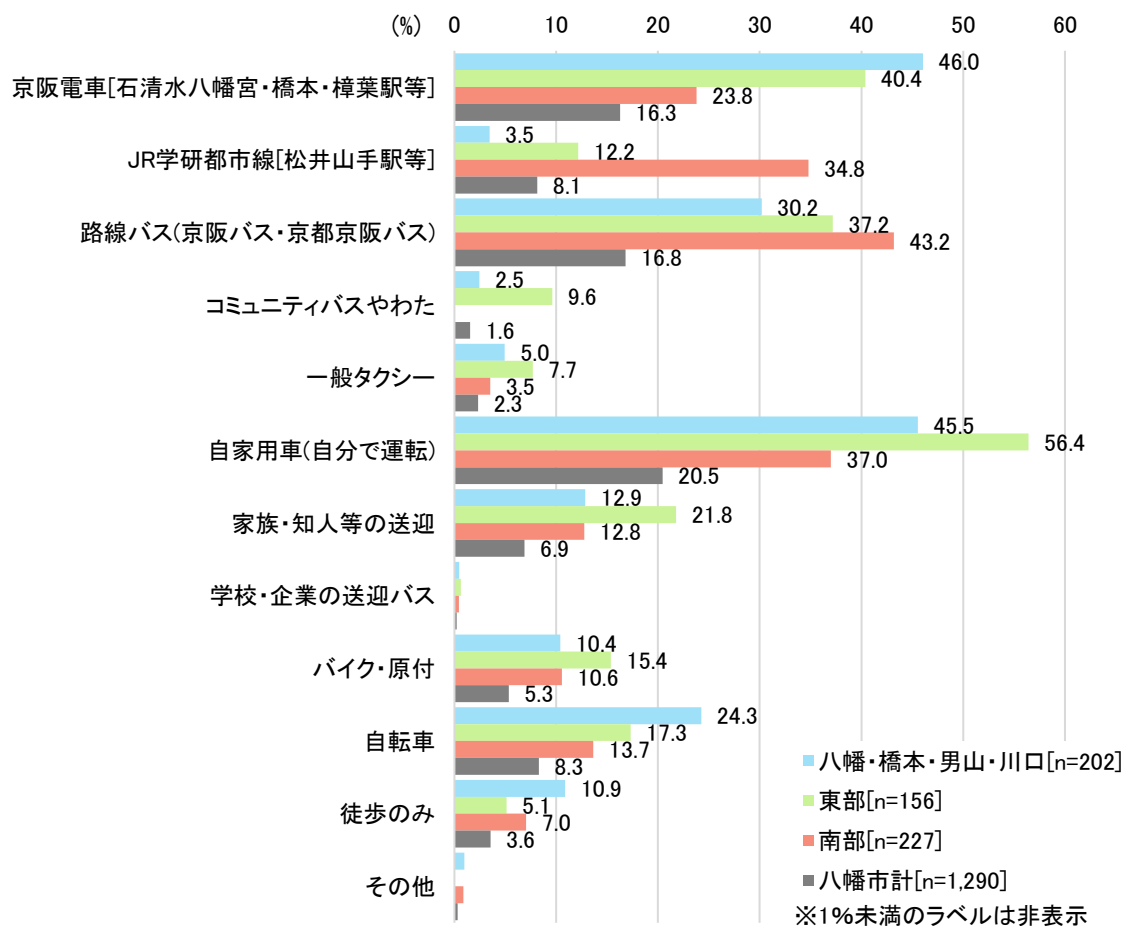


図 通勤・通学時の移動手段

【買い物】

買い物時の交通手段はいずれの地域でも自家用車が最も高く、八幡・橋本・男山・川口で約5割、東部及び南部で約6割を占めている。

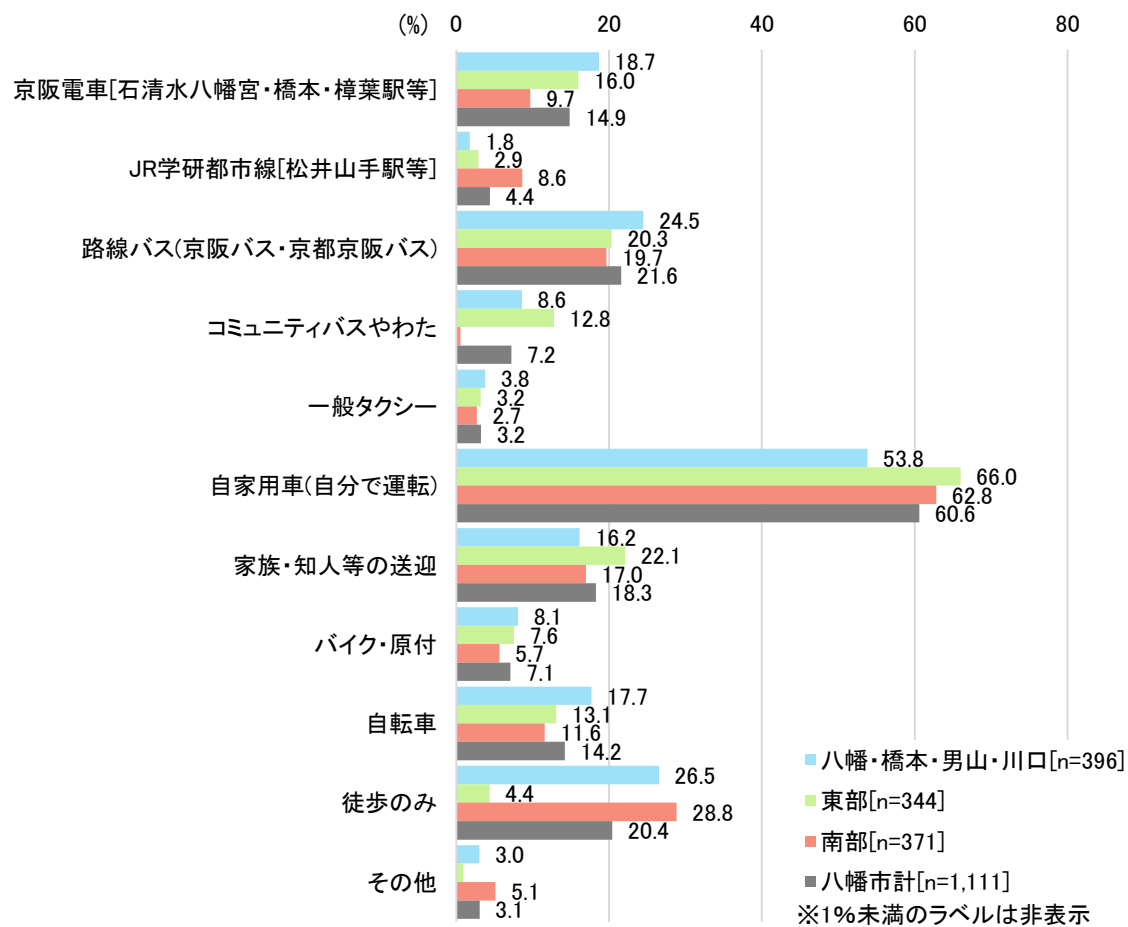


図 買い物時の交通手段

【通院】

通院時の交通手段をみると、いずれの地域でも自家用車の割合が最も高くなっている。特に、徒歩圏内に通院先のない東部では自家用車が約6割を占めているほか、送迎での移動割合も約3割と他地域と比較して高くなっている。

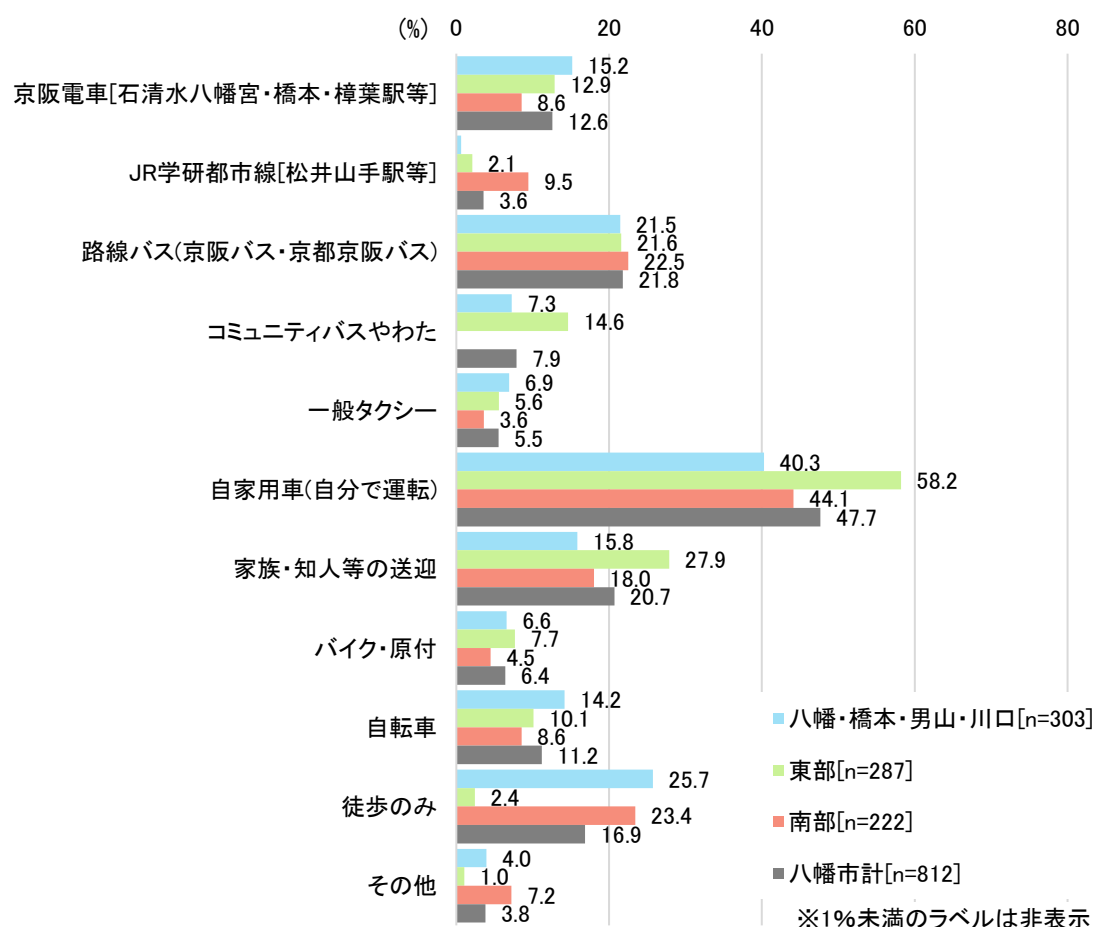


図 通院時の交通手段

③ 外出目的別の外出先及び外出頻度

【通勤・通学】

通勤・通学先は大阪市・京都市・枚方市をはじめとした八幡市外が、市全体で約8割を占めている。先述の通り、通勤・通学では鉄道・路線バスが利用されていることから、石清水八幡宮駅、樟葉駅、松井山手駅等の鉄道駅へのバス路線の確保は重要と考えられる。

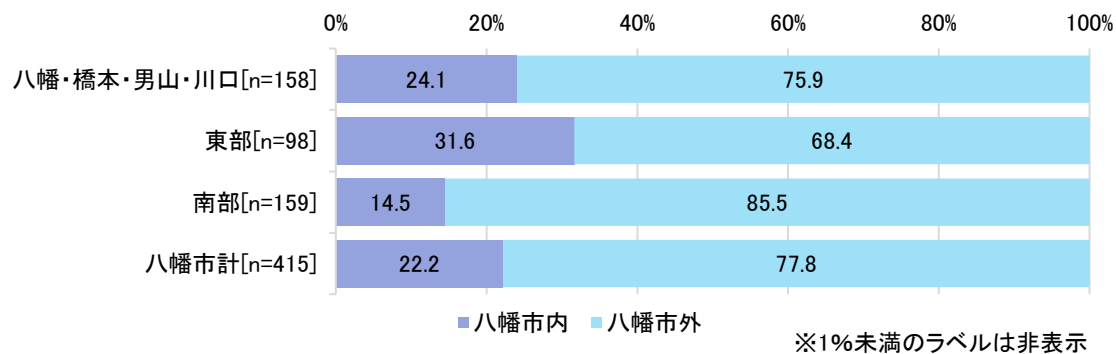


図 通勤・通学先（市内外）

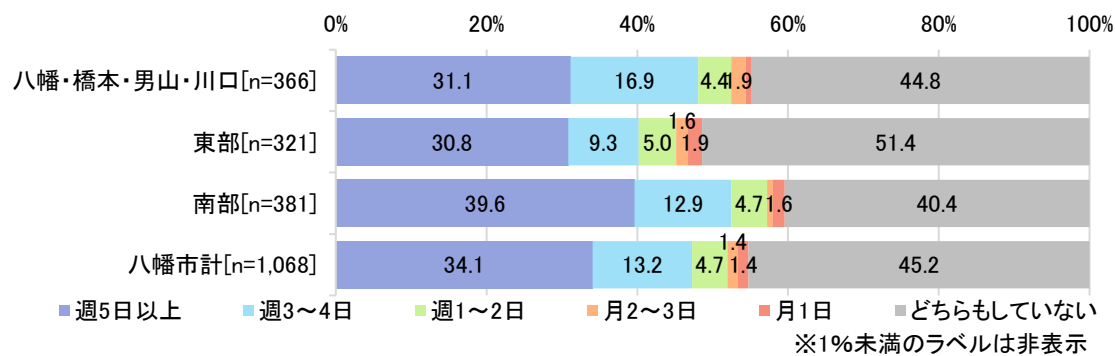


図 通勤・通学の頻度

【買い物】

八幡・橋本・男山・川口地域及び、東部地域の買い物先ではイズミヤショッピングセンター八幡店の割合が最も高い。

南部地域はホームセンタームサシ京都八幡店やソフィアモールなど地域内の商業施設の割合が高く、近隣で買い物が完結している。

表 地域別の買い物先（上位4施設）

順位	八幡・橋本・男山・川口[n=394]	東部[n=340]	南部[n=371]
1位	イズミヤショッピングセンター八幡店 43.4%	イズミヤショッピングセンター八幡店 63.5%	ホームセンタームサシ京都八幡店 53.4%
2位	くずはモール 37.3%	ホームセンタームサシ京都八幡店 31.8%	ソフィアモール 41.2%
3位	スーパーマツモトくずは北店 29.2%	くずはモール 24.4%	イズミヤショッピングセンター八幡店 33.2%
4位	ラ・ムー八幡店 23.9%	ラ・ムー八幡店 20.9%	くずはモール 28.0%

買い物の頻度はいずれの地域でも、約8割が週1回以上と回答している。

特に、イズミヤショッピングセンター八幡店は利用割合が高いものの、近隣に停留所がなく地域公共交通でのアクセスが難しいことから、バスアクセスへの潜在的なニーズが高いと考えられる。

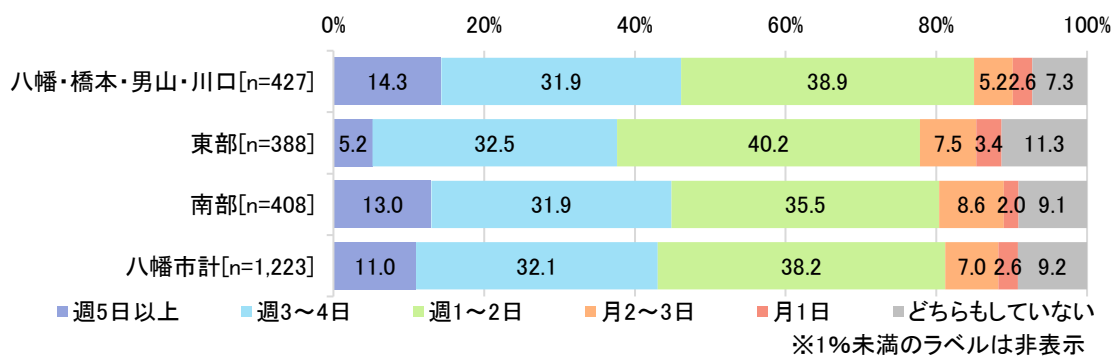


図 買い物の頻度

【通院】

最もよく行く通院先では男山病院が各地域ともに最も高い。

表 地域別の通院先（上位4施設）

順位	八幡・橋本・男山・川口[n=302]	東部[n=285]	南部[n=222]
1位	男山病院 32.1%	男山病院 11.6%	男山病院 11.3%
2位	八幡中央病院 10.6%	京都岡本記念病院 11.2%	京都岡本記念病院 5.0%
3位	京都八幡病院 4.6%	八幡中央病院 9.5%	八幡中央病院 1.8%
4位	京都岡本記念病院 3.3%	京都八幡病院 4.6%	京都八幡病院 0.9%

通院の頻度は、買い物と比較して低いものの、コンビニ沿線の八幡・橋本・男山・川口及び東部では、約7～8割が月1回以上と回答していることから、引き続きこれらの地域から通院先への乗り継ぎを含めたアクセス確保が必要と考えられる。

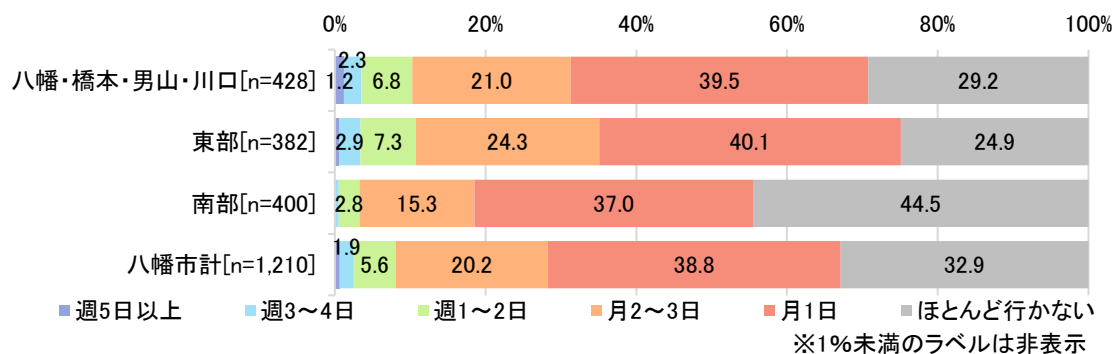


図 通院の頻度

【公共施設利用】

最もよく利用する公共施設では八幡市役所・八幡文化センターが各地域ともに最も高い。

表 地域別の公共施設利用先（上位4施設）

順位	八幡・橋本・男山・川口[n=176]	東部[n=162]	南部[n=129]
1位	八幡市役所・八幡文化センター 43.2%	八幡市役所・八幡文化センター 45.1%	八幡市役所・八幡文化センター 38.8%
2位	八幡市民図書館 20.5%	八幡市民図書館 16.7%	男山市民図書館 20.2%
3位	男山市民図書館 19.9%	公民館・公会堂 10.5%	八幡市民図書館 14.7%
4位	公民館・公会堂 8.0%	八幡市民体育館 9.3%	八幡市民体育館 7.0%

公共施設利用の頻度をみると、ほとんど行かないが各地域ともに約6～7割を占めており、アクセス向上の優先度は比較的低いと考えられる。

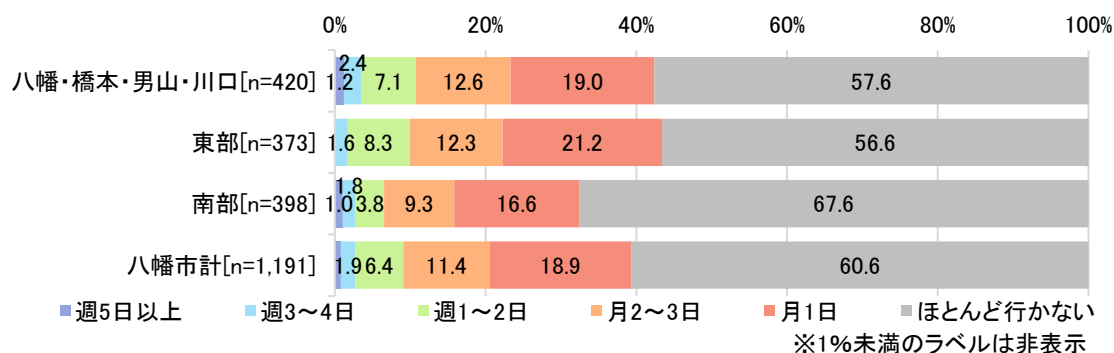


図 公共施設利用の頻度

④ バスに関する項目別の重要度

バスに関する項目別の重要度をみると、いずれの地域でも「③バスが目的地を通っていること」が最も高い。また、その他の項目では「①自宅とバス停間の距離が近いこと」、「④自宅から目的地まで乗り継ぎなしで行けること」、「⑫現在のバス路線が継続的に運行していること」が高い。

利便性の向上に向けては、利用頻度と利用割合の高いイズミヤショッピングセンター八幡店など、目的地となる施設へのアクセス向上が重要と考えられる。

合わせて、現在のバス路線の維持に向けては、継続的な地域住民の利用促進が必要と考えられる。

表 バスに関する項目別の重要度

項目	八幡・橋本・男山・川口	東部	南部
①自宅とバス停間の距離が近いこと	1.35	1.35	1.54
②自宅とバス停間の高低差が小さいこと	0.82	0.84	0.76
③バスが目的地を通っていること	1.39	1.46	1.67
④自宅から目的地まで乗り継ぎなしで行けること	1.37	1.44	1.65
⑤目的地までの所要時間が短いこと	1.01	0.94	1.18
⑥バスと鉄道の乗り継ぎがしやすいこと	1.28	1.34	1.54
⑦バス同士の乗り継ぎがしやすいこと	0.51	0.81	0.73
⑧早朝や夜間に運行していること	0.80	1.00	0.93
⑨時刻表通りに遅延なく運行していること	1.24	1.31	1.34
⑩バス待ち環境が充実していること(ベンチや屋根があること等)	0.78	0.87	0.60
⑪予約をしなくてもバスに乗れること	1.05	1.07	0.88
⑫現在のバス路線が継続的に運行していること	1.42	1.43	1.51
⑬行政が負担してコミュニティバスを運行していること	0.79	0.93	0.37

2. ワークショップ

(1) 開催概要

ワークショップの概要は以下の通りである。

表 ワークショップの概要

日時	令和7年5月10日(土) 14:00～16:20
場所	八幡市役所 会議室 5-1、5-2
参加者数	24人
プログラム内容	(1) 開会・あいさつ・趣旨説明 (2) 八幡市における公共交通の現状について (3) 講演「みんなで「共に」つくる地域の公共交通」 (大谷大学社会学部 講師 野村 実) (4) ワークショップ ①進め方の説明 ②ワークショップ ③発表・質疑応答 ④講評(野村先生) (5) 閉会

(2) 地域別の意見交換

ワークショップでは効果的な意見把握のため、地域公共交通のサービス内容や地形などの地域特性が比較的近い4つのグループに分け、意見交換を実施した。

意見交換テーマ	自分が利用する・利用したくなる路線バスやコミバスのサービス
グループ分け	①八幡北部・東部 (7人) ②八幡中部・男山南部 (6人) ③橋本・男山北部 (6人) ④美濃山・欽明台 (5人)

次頁以降に各グループの意見交換及び発表の様子を示す。

(3) 主な意見内容

表 主な意見

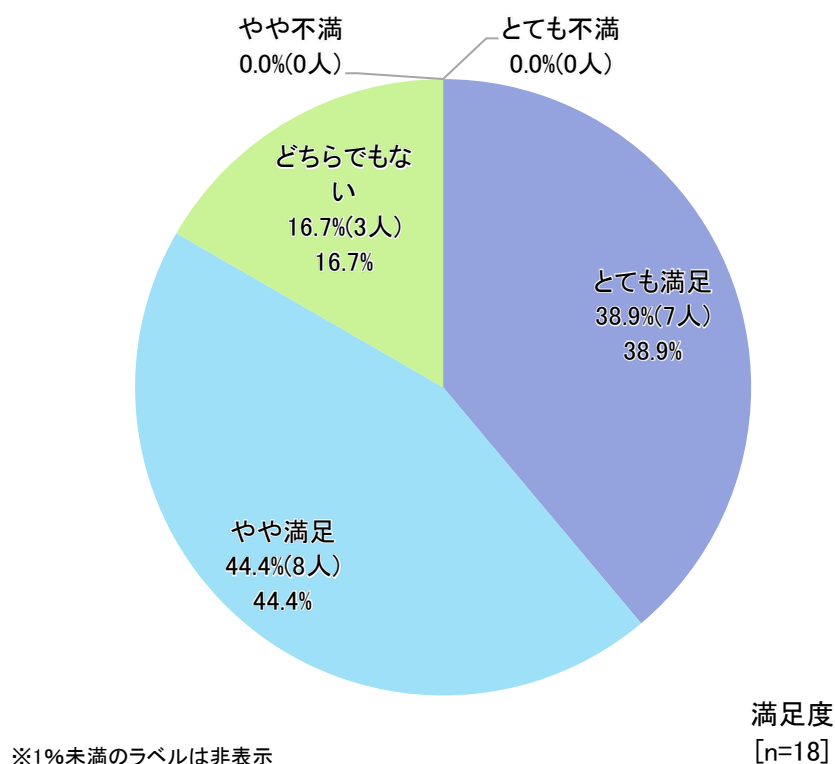
主な意見内容	グループ
・ 石清水八幡宮駅へのコミバス乗り入れ	①、②
・ バスの乗継しやすさの向上 (ダイヤの接続、バス待ち環境の向上(イズミヤ・大芝)、乗継割引の実施)	①、②、④
・ オンデマンド交通について ・ 東部、南部でのオンデマンド交通導入 ・ 橋本西山地域オンデマンド交通の運行区域拡大	①、③、④

(4) 参加者アンケート

① ワークショップの満足度

ワークショップの満足度はアンケート回答者の約 83% (15 人/18 人) が「とても満足」または「やや満足」と回答しており、満足度は高かった。

満足度の理由では「他の地域の事情が知れて良かった」「意見がたくさん出て良かった」などの回答があった。



② ワークショップの感想

ワークショップの感想では、「本日知った内容を家族や知人・友人等にも教えてみようと感じた」（12人）が最も多く、次いで「路線バスの減便・廃止の背景（利用者数減少・運転手不足等）について分かった」（11人）が多かった。

いずれの参加者もワークショップで何らかの情報を得られた、または今後バスをより利用しようと感じており、利用促進の契機となったと考えられる。

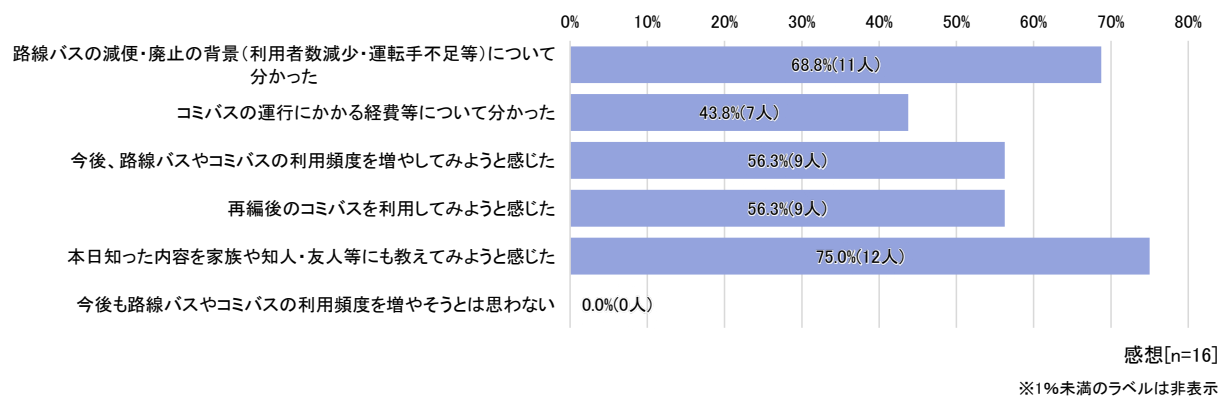


図 ワークショップの感想